平成20年9月30日

高松市長 大西 秀人 殿

高松市情報公開審査会

会長 川東 祥次

行政文書の一部公開決定に関する異議申立てについて（答申）

平成20年1月8日付け高市病第221号により諮問のあった事案について、次のとおり答申いたします。

1 審査会の結論

実施機関（高松市長をいう。以下同じ。）が公開および一部公開とした処分は相当であり、本件異議申立てを棄却すべきである。

2 公開請求の内容および異議申立てに至る経過

異議申立人が実施機関に公開請求した行政文書の内容、それに対する実施機関の決定および異議申立ての経過は次のとおりである。

【高市病第221号の諮問に係るもの】

- (1) 高松市又は高松市長が被告とされた民事訴訟の訴訟記録中の訴状・答弁書・判決書
- (2) 高松市が原告となった民事訴訟の訴訟記録中の訴状・答弁書・判決書（いずれ係争中の訴訟を含む。）

平成19年11月24日：請求人からの公開請求を受付

平成19年12月 5日：実施機関が公開および一部公開の決定

平成19年12月20日：請求人からの異議申立書を受付

3 異議申立ての理由

異議申立人の主張は、次のとおりである。

- (1) 本件処分は、条例の解釈・適用を誤った違法な処分であり、本件処分を取り消し、全部公開をすべきである。
- (2) 本件「決定通知書」に記載している「公開しない理由」は、条例の非公開事由に該当しない。本件非公開部分は、他の課においては既に開示している部分であり本件についてのみ非公開とすることのできる本件公開条例上の特別の非公開事由は規定されていない。
- (3) 本件「決定通知書」の「公開しない理由」には、適法に処分理由が明示されていないので、高松市行政手続条例第8条に違反し、本件処分は無効である。

4 実施機関が非公開とした理由

実施機関が非公開理由書において主張している本件処分の理由は、概ね次のとおりである。

- (1) 請求の対象となった事務・事業の概要

ア 平成12年(ワ)第382号損害賠償請求事件

本事件は、平成12年7月11日付けにて勤務中に起因する事故が原因で、夫が死亡したと訴える妻が、香川労働基準局長から地方労災医員を委嘱された市民病院の勤務医が、死亡診断書を正しいとする虚偽の鑑定を行なったことに不服があるとして、勤務医とその雇用者たる高松市を被告として高松地方裁判所に損害賠償を請求したものである。

これに対し、平成12年9月に勤務医と本市が答弁書を作成し、口頭弁論等を経た後、平成13年11月27日の判決において「請求原因の事実が認められず、また、市民病院の勤務医が国家公務員としての立場で鑑定を行ったことから、原告の主張が理由の無いものである」として請求を棄却した事件である。

- イ 平成13年(ネ)第594号(原告控訴前は、平成12年(ワ)第382号)損害賠償請求事件

本事件は、上記事件の控訴審であり、平成13年12月12日付けにて高松高等裁判所に上訴したものであるが、平成14年4月25日の同裁判所の判決で、「控訴人の請求を棄却した原判決は相当であり、控訴は理由が無い」ものとして棄却された事件である。

ウ 平成17年（ハ）第364号（地裁移送後は、平成17年（ワ）第151号）損害賠償（その他）請求事件

本事件は、原告が勤務中に負った傷病が原因で市民病院を受診し、同病院に勤務する医師の診断で治療を受けたが、検査等の遅れにより3度にわたる手術を余儀なくされ、経済的・精神的苦痛があったとして平成17年3月31日付けで本市を被告とし使用者責任による損害賠償を請求したものである。

平成17年4月28日付けで本事件は、高松簡易裁判所から高松地方裁判所へ移送されたが、同年6月から口頭弁論および証拠調べ等を経て、平成18年1月26日「被告に対し医師の使用者として本市の事業の執行となした行為について、民法715条に基づき原告に生じた損害を賠償する責任があるとして慰謝料50万円、遅延損害金2876円、計50万2876円の支払いと訴訟費用2/5の負担を命じる」との判決に至ったものである。対象行政文書は、前記平成12年（ワ）第382号損害賠償請求事件および平成13年（ネ）第594号（原告控訴前は、平成12年（ワ）第382号）損害賠償請求事件に係る控訴状、答弁書（案）、判決文、ならびに平成17年（ハ）第364号（地裁移送後は、平成17年（ワ）第151号）損害賠償（その他）請求事件に係る訴状、判決文である。

(2) 非公開部分および非公開理由について

原告の郵便番号、住所、氏名、電話番号、ファックス番号、印影および原告の夫の氏名については、特定の個人を識別することができるものであり、個人識別情報である。

医療過誤訴訟における民事訴訟記録の開示請求については、高知県において公文書（訴訟記録）の一部である個人情報情報を非公開としたことに対して、非公開情報の開示について提訴され、高松高等裁

判所の判決は「非公開」となったが、最高裁に上告されていたところでもある。（平成20年1月15日棄却）

医療過誤訴訟における病名等の個人情報、最大限尊重されるべきであって、複写等による伝播性が高いことも考えると非公開が妥当であり、また、前述した高知県の裁判においても最高裁の判断が示されていないことから、現在、判決の出ている高松高等裁判所の判決（個人識別情報非公開）で対応するべきであると判断したものである。

また、香川労働基準局長から地方労災医員を委嘱された市民病院の勤務医が、亡夫の死亡診断書を正しいと虚偽の鑑定を行なったとして、亡夫の妻に提訴された事件の訴訟記録等の中にも患者の氏名や死因、既往症などの個人情報等が含まれているが、医療過誤訴訟にかかわらず病名等は個人情報の中でも保護の必要性が高いため、同様に非公開とすべきであるとしたものである。

よって、高松市情報公開条例第7条第1号に該当し非公開が相当である。

5 審査会の判断

当審査会は、実施機関の非公開理由および異議申立人の異議申立理由を条例に照らして慎重に審査した結果、次のとおり判断する。

対象行政文書は、高松市または高松市長が被告となった前述の損害賠償請求事件に係る答弁書（質問票）（案）、訴状、答弁書（案）、判決文および控訴状であり、以下、非公開部分について検討する。

原告の郵便番号、住所、氏名、電話番号、ファックス番号、印影および原告の夫の氏名について

本件については、決定通知後に訴訟事件となっており、本市は、民事訴訟記録が裁判所で閲覧できる情報であったとしても、個人の死亡原因や病気、治療に関する情報等はなお、慎重に配慮しなければならないと主張し、平成20年5月12日の高松地裁判決においてその主張が認められ、市の勝訴が確定している。

民事訴訟記録が民事訴訟法91条1項の規定により閲覧できるとしても、そのことから直ちに、個人に関する情報を保護しなくてよいとは言えず、情報公開請求権と個人情報保護の要請の調和を定める条例3条の趣旨に照らし、患者の住所、氏名等個人が識別されることとなる情報は、情報公開請求権に対する必要最小限の制限として、これを非公開とすることは許容されるとの判旨は首肯されるものであり、本件決定は妥当である。

よって、当審査会は、「1 審査会の結論」のとおり判断する。

6 審査処理経過

年 月 日	処 理 内 容
平成20年1月8日	諮問書受付
平成20年1月18日	実施機関からの非公開理由書受付
平成20年8月19日	実施機関の非公開理由の聴取および争点の審査
平成20年9月19日	答申案審査
平成20年9月30日	答申